

会 議 録

会 議 の 名 称	新座市公共施設再配置計画策定に向けた市民説明会
開 催 日 時	午後3時から 令和8年4月18日(土) 午後5時まで
開 催 場 所	新座市役所第二庁舎1階 憩いのギャラリーこもれび
事 務 局 職 員	<p>総合政策部長 伊藤 総合政策部副部長 浅島 総合政策部参事兼公共施設マネジメント課長 加藤 公共施設マネジメント課副課長 柴沼 公共施設マネジメント課公共施設マネジメント係長 増田 公共施設マネジメント課主査 照井 教育総務部長 齋藤 教育総務部副部長兼教育総務課長 森山 教育総務課小・中学校適正配置等推進室長 五十嵐 教育総務課小・中学校適正配置等推進室専門員 狩野 学校教育部長 丹代 学校教育部副部長兼教育支援課長 山崎</p>
説 明 会 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 総合政策部長挨拶 3 計画素案についての説明 4 質疑応答 5 閉会
説 明 会 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 資料1 3 資料2 4 資料3 5 アンケート調査票
参 加 人 数	48人

説明会の内容

- 1 開会
午後3時00分開会
- 2 総合政策部長挨拶
- 3 計画素案についての説明
 - ア 公共施設マネジメント課職員説明
配布した資料1・2に基づき、公共施設マネジメント課から説明した。
 - イ 教育総務課職員説明
配布した資料3に基づき、教育総務課から説明した。
- 4 質疑応答（・は市民の発言(カッコ内は居住地)、→は職員の発言を示す。）

→(司会) 次第4の質疑応答に移る。本日はできるだけ多くの皆様からご意見ご質問を賜りたいと考えている。たくさんいらっしゃれば一人一問ずつとしたいが現時点で質問がある方は挙手をお願いしたい。

・(野寺二丁目) 老朽化と人口減少に伴う施設の効率的な再設置、これについては同意している。
ただ、これまでの検討の中で最後の部分分からない。今日は素案を示したが、9月末に最終計画案を策定するが、数か月しかない。その後、計画を最終的に決定していく手続はどういう形で行われるのか。例えば短期・中期・長期という実施時期に応じて決定していくのか、施設ごとに決めるのか、決定についての考え方について確認したい。

→ 公共施設再配置計画の計画期間は20年の長期にわたる。今年度9月末に策定したとしても、策定後に社会情勢の変化や施設ごとの変化も考えられる。このため、おおむね5年単位の期間の中で方向性について見直しをする考えである。中期・長期は先々が長いので現状の市の考え方として整理していきたいが、直前にならないと分からない部分もあるため流動的に見直したい。一方で、短期は向こう5年の計画となるので、計画が策定された際には、このとおりに進めていきたいと考えている。

現在は素案の段階であるため今回のような説明会の機会を通じて市民の皆様からのご意見を聴取し、最終案を決定していきたい。様々な議論を通じて素案を整理してきたものであるが、何としても素案のとおりに進めていこうというのではなく、様々なご意見をいただき、ある程度必要性があると判断されれば計画の見直しは柔軟に対応し、最終案に対するパブリック・コメントの手続に入っていくことを考えている。

・(栗原一丁目) この配置計画では栗原第一集会所が短期で廃止対象となっているので大変困る。住民の3分の2で構成する組織を維持し、春夏秋のお祭りなどの活動を実施している。集会所が活動拠点になっているが一気に廃止となるとこれはどうしたものか。
質問としては、短期に位置付けたものは直ちにやるということだが、これが執行された場合の代替の対策はどのようなものが考えられるのかと

いうことを伺いたい。

この計画は新座市が設立されて何十周年、それ以来の大改革という事態、内容である。にも関わらず、先の市長選挙で市長が一般的な公約、抽象的な公約としてあったのかもしれないが具体的な公約として説明をしたかどうか、それで当選されたかどうか、ここから問わないといけない。

本来はこの説明会に市長自らが登場してやってしかるべきであるにも関わらず、アンケートにしても人口の1%にも満たない答えを根拠にして粛々と進めていくというのは全く納得がいかない。

学校も含めて公共施設は新座市の事業の現場の施設である。その改編を求める場合に、この1年や2年といった短期間で計画を確立してしまうことは到底考えられない。拙速に過ぎない。なので、計画の内容については時間を取って様々な意見を集約していただきたい。

私自身は哲学が無い、市民の顔が見えない計画なのでそこを改める必要があると感じており、賛成できない。時間をかけることを強く要望する。色々町内会の活動をやっていて、他の町内会の方々も同様の危惧を持っていると感じている。町内会の活動されている方や市民全体が声を大きくしていくことが必要だと思うので併せて呼びかけたい。

→ 市長からも質問については丁寧に聞くようにと指示を受けている。市民の意見として賜った。

代替りの施設としては、他の集会所、公民館、コミュニティセンター、ふれあいの家である。設置状況から現状の施設から遠くなることは発生するが、既存の他の公共施設を代替としていただきたいという考えである。

- ・(野火止六丁目) 私たちの地域は野火止集会所で色々やっている。2月から署名を集めて3月と4月の2回に分けて合計355筆を提出した。野火止集会所を廃止しないで残してほしいというものである。公共施設マネジメント課長とも30分ほど懇談し、要請をした。このことについて改めて訴えたい。

学校の統廃合と、施設の廃止や継続の関係は、別に意見を受けるべきである。何でもかんでも一緒にやるというのは性質が違う。7つか8つの学校の統廃合を考えていると思うが、学校の統廃合は子ども、大人、かなりの長い期間にわたって影響する。そういう問題と施設の問題を一緒にするのはなく区別してやっていくべきである。

そして先程も町内会の役員の方が言っていたが、市長や教育長がこういう場に出席しないというのはやはりまずいと思う。

- ・(野火止三丁目) 先程の小学校の計画について、小学校は35人、中学校は40人学級と説明していたが、既にこの4月から中学校1年生は35人学級になっている。日本ほど1学級の人数が多い国はない。25人学級が当たり前になっていくはず。そういうことも想定しないとまずいと思う。そういった意味で学校と施設を一緒に考えて統廃合はどうかと思う。

私も自治会長になり、これだけ災害が多い状況で、まずは防災機能をどうするかと考えているので今日説明会に来たが、大量の説明を受けてしまい頭が飽和状態である。

9月にパブリック・コメントをやるということだが、あまりにも短期間なのではないか。これだけのことを計画するのであれば1年・2年かけて

もっと市民の声を聞いてほしい。

- ・(東一丁目) これだけの盛りだくさんの内容の説明会を今回だけで終わらせるのはもったいないので、それはもう少し考えてもらいたい。

先日市に伺い、丁寧に聞いてもらった。野火止集会所と東一丁目集会所は間近にある。多くの方に両方使われていて、地域コミュニティや災害時の拠点など様々な役割を担っている。市民の会や健康麻雀、敬老会や誕生会などを、利用者が協力しあって実施している。

野火止集会所が廃止という事に対し大変ショックを受けている。年齢を重ねて、遠くに足を運ぶには困難になってきている。近くにあるから施設に行くことができる。なぜ廃止にするのか、みんなが使っているのにといい意見が多い。

人々が生きていく上で孤立せず希望を持って生きていくには、助け合い支えあう場が必要である。集会所はそういう役割を果たしていると思う。皆さんが協力しあって、町内会もそうだが少年野球や懇談会だとか幼稚園も集まってどうしたらいいか真剣にやっている。そういう集まりを無くしてしまうということ私は受け入れられない。集会所、拠点が無くなるのは、市民にとっても、これから生きる人たちにとっても本当に大変なことである。皆さんの声を聞いていただき存続していく立場を取っていただきたい。皆さんの叫びである。とにかく廃止は困る。

新座市では令和6年度の決算では基金の合計が約91億円に上っている。これらを貯めこむのではなく建替えに使っていただきたいと強く要望する。

- ・(中野) 現在市内の全ての小・中学校に特別支援学級がある。以前は全校ではなかったが、全ての学区に住む特別な支援を必要とする子どもが地元の学校で支援を受けられるように市が進めてきた。これは重要な施策である。ところが学級数の推移の中に特別支援学級が勘案されていない。普通学級のみとなっている。「市立小中学校の適正規模・適正配置に関する検討報告」の7ページには、通級指導学級、特別支援学級を考慮する文言はあるが、特別支援学級は児童・生徒がいて担任もいる正式な学級である。普通学級が減ったとしても普通学級の数%に当たる子どもが特別な支援を必要とするということが国のデータに出ている。学級数の変動に関わらず、一定程度、特別支援学級に対するニーズが存在するという見通しを持たなくてはいけない。

特別支援学級が存在することも踏まえると、単学級ということはないのではないかと。詳細は教育委員会が把握していると思う。先程、小・中学校も全て35人学級になる見通しという意見があったが、もう一度推移を精査する必要があるのではないかと。その辺りの修正・見直しはどうなっているのかということ伺いたい。

- 特別支援学級の児童・生徒数の推移は把握している。平成31年には特別支援学級の児童・生徒数は121名、学級数は29学級となっていた。ご指摘のとおり、同年度においては特別支援学級が全校に配置されていない状況だった。今年度については特別支援学級の児童・生徒数は265名、学級数は52学級となっている。この数値は小学校の部分である。学級数については大幅に増えているが、支援が必要な児童が増えているというよ

りも、様々な子どもたちに支援の手が行き届けられるような状況が整えられてきていると捉えている。

→ 補足で説明させていただく。先程も説明をしたが、今年度、審議会を設置し、基本方針を教育委員会で作っていく方針である。特別支援学級も課題の一つであると認識しているので、只今いただいたご意見も踏まえてしっかり議論していく。新座市のビジョンとしてどうしていくかお示ししながら計画を策定する予定である。

・ 学級数に支援学級はカウントしないのか。

→ 今回は普通学級のみとしてお示ししたが、特別支援学級についても学校に何クラス必要なのかを見据えて基本方針を策定していきたいと考えている。

・ (野火止四丁目) そもそもこの話を聞いたのは突然だった。そんなことを誰が希望しているのかと感じた。希望している人も先程いたが、突然出てきたような感がある。

資料の財政の状況の部分を見ると、扶助費が5倍になっている。色々なところが老朽化しているのは分かるが、みんなで色々なことを工夫して何とかしていけばいいのではないかと感じている。もっとそういう意見を募ればいいと思う。

地下鉄を呼ぶためにお金を貯めているのではという話をよく井戸端会議で聞く。交通が不便だから地下鉄が欲しいというのは分かるが、私たちの身近なものに税を使ってほしいという人も結構居る。

今日も小中学校の統廃合の色々な話があったが、今日来ている人たちの中に若い人がいない。市の動きをもっと知らせるべきである。自分の子どもが通っている学校が将来無くなってしまう。極端かもしれないが学校でアンケートを実施してはどうか。

→ 学校の件について、アンケートを取った方がいいというご意見をいただいた。今年度、学校関係者や児童生徒を含めてアンケートを実施する考えである。

・ (新堀三丁目) 端っこの西の方の居住者はあまりいないと思うので発言させていただく。新堀三丁目集会所が廃止の対象となっている。利用者数には計上されていないと思うが、年2回のお祭りの会場になっていて、子どもたちで大変賑わうので残してほしいという意見である。

集会所の最寄り駅が清瀬駅でマンションや新築の家が建ち子育て世帯や若年層が増えている。清瀬駅は別の市ではあるが、ひばりヶ丘駅のように人が来る拠点として意識していただき、上手く若年層を取り込んで財政面も改善できればいいと考える。

・ (野寺三丁目) 新座市からほど近い東京都のある市の職員をしている。8年くらい前に公共施設等総合管理計画を策定した。市民説明会を実施したが、あまり参加してもらえず、議会からは市民のコンセンサスが得られていないと相当怒られた記憶がある。

今回、新座市もこういった計画を作るのは理解できる。前提条件として人口推計の話もあったが、どうしても高齢者人口が増えていく、生産年齢人口が減っていくと公共施設の総量抑制とコストの縮減はどこの自治体

も待ったなしでどこも悩んでいる。こういった取組は丁寧にやっていかなければいけないということで、意見として述べさせていただく。

財政的なことで説明があったが、新座市の令和7年度末の財政調整基金の額を教えてください。

→ 財政調整基金は一般の方は馴染みがないものだが、いわゆる市の貯金で、何かあったときのために緊急で使えるお金のことである。令和7年度決算見込みの数字は62億円である。ただ、令和8年度当初予算では25億円程度を取り崩し、財政調整基金は37億円でスタートした。

- ・(野寺二丁目) 今日は説明会ということで丁寧な資料で説明を受けた。個人的な考えはこの資料を読み込んで色々な角度から検討する。他の方のご意見は、それぞれの立場や見方によって違ってくると思われるので揉んでいくしかないと思っている。今日は建物を潰すとか移設等について説明があり、それはよく分かった。

我々の住んでいる南4地区(片山、池田、道場、野寺)は、黒目川や貝沼というバス停があるように液状化が懸念される地域である。これは市が作成した液状化マップに載っている。今日も地震があったが、もし震度6の地震に見舞われた場合、バス通りを含めてインフラが壊れて陸の孤島になってしまうことが一番心配なので、関係機関との連携のもとに盤石にするというようなことを練り込んでほしい。

野寺集会所は10年くらい前に立派なものが建ったが雨が1時間に50ミリ程度降ると洪水になる。去年の9月も50ミリに満たない雨で駐車場が水没し、集会所にいた人が出られない状況だった。

間違いなく液状化が起こるということは、最近の建替えや解体を見て水が出ていることと、電柱が傾いていることからわかる。その辺のことも総合的に見据えて検討してほしい。

今日説明を受けた話はよく分かったので進めていただきたい。

もう1点、県の教育委員会も教員の採用が少なく、今は大宮から2時間半かけて若い先生が通ってきている。そういうことも考えたときに、本当に教員を増やすのか、集約化し適正な規模にした上で教員にもいきいきと働いてもらうためにどうするのかということを経営的に判断して今後進めていただきたい。個人的には反対だとかはない。じっくり今日の説明をまた読ませていただく。

- ・(野火止八丁目) 個人的な話だが、孫が通っている小学校は1学年1学級で、6学年で6学級である。その学校が廃れていて寂しいかということのようなことはない。運動会も学校行事もみんな元気に頑張っていて、広く校庭も使えてのびのびとやっている。

新座市では単学級にならないように、児童数が多い方がいいということだが、これから少人数学級を増やし子どもたち一人一人に目を向けた教育にしてほしい。そのための少人数学級で、学校現場も先生も頑張っている。全てが、どういう新座市にしていきたいのかが見えない。

集会所にしても地域のコミュニティを大事にしていくためのもの。人とのつながりが難しくなっていくなかで、近くにあるのが大事だが、学校だってそうである。

遠くなって1年生がどうやって通えるのか、親が送っていくのかスクー

ルバスが出るのか、ちゃんと考えて子どもたちが地域で根差して育っていくことで新座市が素敵になると思う。

新座市をどう作っていくのか、皆さんで学校教育のこれからの姿というのを考えていってほしい。

子どもたちの登下校も心配である。地域で見守れるなかで子どもたちが育ってほしいと思うので是非考えてほしい。

- ・(東一丁目) この話を聞いたのが今年2月前後、噂で聞いた。色々市の方に問い合わせをして回答を貰ったりしてこれだけ進んでいるのかと分かった。

既に2年も議論されていたことが市民によく伝わっていない。これから進めていくにあたり、今年中に方向を出してしまうのではなく皆さんの意見をよく聞く形でゆっくり検討していただきたい。

説明を受けて、施設運営や財政運営について本当によく検討されているとよく分かったが、一方で本当に施設が無くなったあと、使っていた人がどうなるのかということまで思いを巡らせていないと感じた。その辺をもう少しこの施設が無くなったときに年間何千人の人たちが、本当に代替施設で対応できるのかよく考えていただきたい。市民の皆さんの意見を聞くことで知恵やヒントが出てくると思うので是非そうやって進めていただきたい。

- ・ 栗原第一集会所を使っている。子ども食堂を年6回、会食は毎月実施している。人数を増やしたくても集会所は狭いし総会も結局小学校の体育館を借りている状況である。人数は関係ない。集会所が廃止されてしまうと物品を持って他の施設に行くことを強いられるが、それは絶対にできない。是非数字に惑わされないように考えてほしい。内情で廃止は絶対にやめてほしい。

- ・(野火止七丁目) 野火止集会所のすぐそばのマンションに住んでいる。会議室が小さいため総会をするために野火止集会所を使っている。集会所がなくなると集まれなくなるため総会も成立しなくなる。

マンションで190世帯が住んでいるが65歳以上が50%以上で高齢者の一人住まいが40人以上いるのでとても東一丁目集会所やふれあいの家まで行くことは難しいと思われる。

野火止集会所は修理をしないようなことを聞いたが、修理をするか、できれば建替えをしていただきたい。使っていて気になることがあり、雨漏りのせいだと思うが集会所の天井に大きなシミがあるので屋根の修理をすぐにしていただければもう少し長持ちするのではないか。

→(司会) 大変恐縮であるがご意見ご質問等がある方はアンケート用紙にご記入いただくか、Webでご意見をお寄せいただきたい。

5 閉会

午後5時00分閉会